［巻頭言］

新型コロナウイルス感染症の次は，

発達心理臨床研究センター長
遊　間　義　一

新型コロナウイルス感染症の第8波が到来かと言われ始めているものの，移動規制は一時期よりも緩和され，国際学会への参加も可能となってきた。厚生労働省は，新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけを，従来の「２類相当」から，季節性インフルエンザと同じ「５類」への引き下げることを検討し始めている。

当発達心理臨床研究センターにおいても，一時期相談活動の停止という厳しい対応をせざるを得なくなった後，現在は，従来通りとはいかないまでも，相談活動を維持し学生が臨床経験を積めるようには機能している。新型コロナウイルス感染症の流行の動向を観察しつつも，遠くない将来には，コロナ前の状況に戻れるのではないかとの希望も見え始めた。やれやれといった感じである。

一難去ってまた一難。次は，令和６年度から相談業務を開始する新長田キャンパスへの神戸ハーバーランドキャンパス臨床心理相談室の移転が控えている。既に移転ワーキンググループが動いており，また年度内には発達心理臨床研究センター兼任教員を中心とした検討会が行われる。相談業務の現行の機能を損なわないように円滑に移転するというだけでなく，新型コロナウイルス感染症対策も盛り込んで，これまで以上に，様々なアクシデントに強い相談室の運営ができるようにしたいと思う。

発達心理臨床研究センター長という立場からは，何も特別なことが起こらず，昨日のように今日が終わり，明日は今日のように過ぎていくことを望みがちであるが，世の中なかなか思い通りにはさせてくれない。変化をわざわざ求めてはいないのだが，変わることは進歩することの条件なのだから，新長田キャンパスへの移転も，大変ではあるけれども，移転してよかったと皆が思えるようなものとしたい。